

平成24年度 町政執行方針

任期満了に伴う4月の町長選挙において再選され、4期目の町政にあたる池部町長が、6月20日に開かれた平成24年第2回町議会定例会において「町政執行方針」を説明し、町政運営に対する所信と基本姿勢、平成24年度各会計補正予算の概要について述べ、町民の皆さんへのご理解とご協力を呼びかけました。

以下、町政執行方針の内容をお知らせします。



■はじめに

平成24年第2回南富良野町議会定例会の開会にあたり、町政執行に関する私の基本姿勢と平成24年度各会計補正予算の概要について申し上げ、議員各位をはじめ、町民皆様のご理解を賜り、ご協力をお願い申し上げます。

4月の任期満了に伴う南富良野町長選挙におきまして、町民の皆様をはじめ、多くの方々から温かいご支援を賜り当選の栄に浴し、引き続き4期目の町政の舵取り役として重責

不安は、益々増大する一方でありま

す。

私は、このような不安が蔓延する社会の中で、町民の皆様が安心してこの町に住み続けていただくために、多くの先人の血と汗によって築かれたこの町を次の世代に繋いでいくために、これからのまちづくりには、行政がどこまで取り組んでいけるのか、どの領域まで踏み込んでいけるのか、この限界をしっかりと見極めながら、町民皆様のニーズの一つ一つ丁寧に対応していく、困難な課題は多くても、小さな町だからこそできる解決手段が必ずある、私はこの信念を貫く覚悟で、まちづくりの努めていく決意であります。

■総合行政の推進

私は、これからの行政が一番意識していかなければならないことは、「町民皆様の満足度」であります。

これからは行政が何をしたかではありません。そのためには、町民皆様や町内会、企業やNPO法人、活動団体等の皆様との協働を、より一層推進させていただき、パートナーシップの視点による地域に密着した総合行政の推進に努めていく考えでありますので、議員各位並びに町民

を担わせていただくことになりました。

今回の改選にあたりましては、町民皆様から「まちづくり」につきまして、数多くのご意見、ご提言などをいただきました。これらお寄せ下さいましたご意見、ご提言などを謙虚に受けとめさせていただき、町民皆様の負託にお応えするため、町民の立場でこれからのまちづくりに自身の努力を傾注してまいる所存であり、決意を新たにしているところであります。

私は、平成12年に初当選して以来、今日まで3期12年間に亘り、多くの町民の皆様を支えられ、ご意見やご指導をいただきながら、「町民参加のまちづくり」「行動する行政」を基本姿勢に揚げ、町民皆様の暮らしの視点から物事を考え、様々な仕事に取り組みさせていただき、町の振興発展のために全身全霊を傾けまちづくりに努めてまいりました。

就任当初は、国の財政再建の嵐が地方に吹き荒れる中、本町予算の約7割を占める国からの地方交付税が毎年大幅に削減される状況であり、本町の財政環境が一変するという、私にとつては大変に厳しい町政運営のはじまりでありました。

私は、このような財政危機の中で、南富良野町の将来展望を切り開いて

準を上げることが最も重要であり、

このことが様々な農業問題の課題解決の糸口になると考え、種子馬鈴薯出荷貯蔵施設への助成を始め、農業雑用水施設の設置、さらには、ジャガイモシストセンチュウ発生時には、直ちにまん延防止対策を実施し、緊急且つ危機的な状況に対しましても積極的に行動してまいりました。

また、生産条件の不利を解消するための農地基盤整備については、平成20年度から北落合地区で特定中山間保全整備事業が始まり、営農用水整備や鹿防護柵の設置、農地整備などの基盤整備が進められ、本年度で事業が完了の予定であります。

幾寅、金山、下金山地区の道営中山間地域総合整備事業は、平成21年度から事業に着手し、土地改良や鹿防護柵の設置が進められ、本年度は当初計画の農地整備を全て完了する予定であり、全町的な鹿柵も2年程度で完成する予定でありますので、引き続き農業生産コストの削減と高品質で安定した収量を確保し、生産者所得の向上を図るために農地基盤整備の推進実施に努めてまいります。

さらに、大規模な耕地面積を擁する北落合地区では、農業機械の大型化と農産物搬出車両の増加並びに交通安全確保に対処するため、新たに町道東幾寅線道路の整備に平成25年

いくため、いち早く行財政改革に取り組みさせていただき、身を切る改革をはじめ、身の丈にあった均衡予算の確立に努め、基金に依存しない財政運営など、財政の持続性と健全性を大きく高める取り組みに努めながら、町民皆様のご要望にお応えするため、政策の選択と集中により、地域資源を活かした産業振興や大きく踏み込んだ少子高齢化対策、障害者への支援、雇用・生活・環境衛生の向上対策などについて、積極的に政策を展開することができました。

これも偏に、町民皆様の町政に対する熱い信頼と後押しがあったからこそその成果であり、心より深く感謝を申し上げます。

国政では現在、通常国会が開催されております。消費税増税を柱とする社会保障と税の一体改革、TPP交渉参加の問題、東日本大震災による本格復興と原発災害の問題など、国を左右する重要な課題が山積しておりますが、政局の混迷と不透明さのみが表面化し、極めて私たちにとつては不幸な政治情勢となっております。

さらに、急速な円高の進行やデフレによる産業の空洞化といった雇用不安、大規模な自然災害の発生に対する不安やエネルギーの高騰など、私たちのこの先の社会生活に対する

度から取り組んでまいります。

地元馬鈴薯の消費拡大による生産者所得の向上と雇用対策、地域振興など、多くの期待を寄せて誘致いたしました、ふるの農業協同組合のポテトチップス製造工場であります。平成21年12月から操業され、販売・加工ともに順調に実績を伸ばしているとお聞きしており、町内での原料作付面積も拡大されてきておりまして、今後益々農家経営の安定に重要な役割を果たしているところでもあります。現在の従業員数125名の内、約半数は町外からの通いであることから、従業員の定住促進を進めるため、町職員の旧独身寮や町営住宅を提供し、空き家バンク制度による民間空き住宅の情報も積極的に提供するなど移住促進に努めながら、ふるの農協に対しましては、従業員の定住促進に対する協力支援を要請してきたところであります。

今般、ふるの農協からは、本年度から計画を持ってパートタイム職員をフルタイムの職員に順次切り替えていき、その上で民間賃貸住宅を本町で確保し、工場職員を定住させていく旨の説明をいただいたところでありますのでしっかりと連携を図りながら定住促進に努めてまいります。民間賃貸住宅の建設用地について

皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

この度の4期目の選挙を通じまして、今すべきこと、将来のために行うこととして、私がお約束した事項に關し、順次述べさせていただきます。第1回町議会定例会で述べました平成24年度の町政執行方針との重複を極力避けながら、本年度の主な施策と本定例議会に提案をさせていただきますました主な補正予算について申し上げます。

◆農業の振興

はじめに、農業振興についてであります。

現在、農業生産者の皆様は、国の「新たな食料・農業・農村基本計画」において、食料自給率50%達成の目標が掲げられ、食料増産が求められる一方で、TPP交渉参加への不安にさらされています。また、近年のエネルギーや生産資材の高騰、気象変動による作物の品質収量の低下も重なり、生産者の皆様は大変厳しい農業経営を強いられています。さらには後継者問題や離農・廃業に伴う農地の利用集積の問題、個人経営から法人経営への転換など、多岐にわたる課題が山積しております。

これまで私は、生産者の所得の水